KSKR

No.２８１

2022 Jan. 1

奈良県自閉症協会 NEWS

きずな

The Kizuna

http://www.eonet.ne.jp/~asn/

発行人：
関西障害者定期刊行物協会
編集人：奈良県自閉症協会
支部長＆事務局：河村舟二
〒639-1005
大和郡山市矢田山町 84-10
購読料１部　１００円
会員は会費に含まれています。

明けましておめでとうございます。2022 年（令和 4 年）を迎えました。2020 年 1 月 20 日に横浜港を出港したクルーズ船ダイヤモンド・プリンセス号の乗客で，1 月 25 日に香港で下船した 80 代男性が新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に罹患していたことが同年 2 月 1 日確認されました。これを皮切りに、「新型コロナウイルス感染症」の猛威に振り回された 2 年間でした。皆様にはお変わりございませんでしょうか。これまで、密閉・密集・密接の 3 密を避け、マスク・手洗い・換気に気を使う生活様式が求められ、環境の変化に弱いなどの特性を持つ自閉症の人たちとその家族には、とりわけ大変だったと思います。現在わが国では、国民のワクチン接種も進み、オミクロン株が流行中ですが、感染力は依然として強いものの、毒性は弱く、以前のように死亡率は高くありません。やっとコロナウイルス感染は収束の気配が見えてきたようにも思います。1 月 17 日 zoom でミーティングを行い 4 月 2 日の世界自閉症啓発デーの取り組み総会など今後の活動計画について話し合いました。そこでは、今年もコロナ感染の状況を踏まえ、当分はみんなが一堂に集まることは避け、少人数の集まりと、Zoom を利用したハイブリッドの活動を進めて行こうとの意見でまとまりました。早くコロナ感染が完全に収束し、以前のように皆様とお顔を合わせることができる様になることを楽しみにしています。皆様、本年も奈良県自閉症協会の活動にご支援ご協力をよろしくお願いいたします。（河村）

日本自閉症協会事務局人事異動について

加盟団体代表者様、事務局ご担当者様、理事・監事　各位
あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。事務局一同、本年も精進してまいりたく存じます。引き続きご指導ご鞭撻いただきたくよろしくお願いいたします。本年１月１日付で小苗代朋子（こなわしろ　ともこ）が入職いたしました。順次事務局業務を担当してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。皆様ご健勝にてよき一年をお過ごしください。とのことです。（河村）

一九九六年五月一日第三種郵便物承認　毎月（1・2・3・4・5・6・7・8の日）発行

令和３年度国立特別支援教育総合研究所セミナーの開催について

令和３年度の研究所セミナーは「共生社会の形成に向けた特別支援教育の展開」をテーマとして、インターネットによる配信にて実施します。

◇日時：令和４年２月５日（土） 9:30 ～ 16:30

※特設ページの動画配信は、
令和４年１月 28 日（金）～３月４日（金）

◇開催方法：ライブ配信・・・Zoom 及び You Tube Live による配信
動画配信・・・・研究所 Web サイトの特設ページから配信

◇定員：1,000 名（先着順）

※定員に達した場合は、You Tube Live での視聴による参加をお願いしています。

◇申込期限：令和４年１月 21 日（金）17:00 まで

◇プログラム

【オンラインパート・プログラム（ライブ配信）】
・辻村賞授賞式
・行政説明
・基調講演
「共生社会の形成に向けた教育の展開（仮）」
講師　熊谷晋一郎　氏（東京大学先端科学技術研究センター准教授）
・シンポジウム
「すべての人が活躍する共生社会をめざして」
シンポジスト（予定）
熊谷　晋一郎 氏　東京大学先端科学技術研究センター准教授
川岸　恵子　　氏　特定非営利活動法人あかり代表理事
菅野　敦　　氏　東京学芸大学名誉教授
佐藤　仙務　　氏　株式会社仙拓代表取締役
空岡　和代　　氏　全国肢体不自由特別支援学校ＰＴＡ連合会長
・分科会（６分科会を予定、申込時に選択可）

【オンデマンドパート・プログラム（動画配信）】
・辻村賞受賞講演
・障害種別研究班の研究活動報告、事業紹介など

＊オンデマンドパートは Web サイトの特設ページにおいて配信します。

＊各パートの視聴には事前登録が必要です。下記の研究所 Web サイトよりお申し込みください。皆さまのご参加をお待ちしています。

〇国立特別支援教育総合研究所セミナーの詳細はこちら→
https://www.nise.go.jp/nc/training_seminar/special_seminar/r3

〇研究所公式 LINE アカウントからも随時情報を発信しますので、是非友だち登録をお願いします→
https://page.line.me/126vsvuc

（以上メールマガジンの掲載内容から）

今後の自閉症ハートフォーラムについて

京都府自閉症協会の宮内さんの話によると、NHK 厚生文化事業団近畿支局長の種田さんから、今後も近畿ブロックとしてフォーラムを実施したいかどうかその意思があるか知りたいとの問い合わせがあったようです。前回のきずなで触れたように、NHK 厚生文化事業団の大阪の支局が閉鎖予定ため、一応近畿支局主催の自閉症ハートフォーラムの事業は今年の京都をもって終了とのことでしたが、要望が強いようであれば、NHK の東京に諮るとのことでした。日本自閉症協会近畿ブロックでは、メーリングリストを通じて、各府県の意見要望の打診があり、奈良県自閉症協会からは、今までと変わりない準備作業であるならば、存続を望みたい旨を伝えておきました。各府県協会ともだいたい同じ意見だったようで、存続の希望を種田さんに伝えられたようです。その後、種田さんから連絡があり、「近畿ブロックの意見ありがとうございます。ご要望に応えられるよう頑張ります」とのことです。今後どうなるかはわかりませんが、自閉症ハートフォーラムは完全消滅ではなく、私たちの希望で実施の脈が残っているようです。みなさまも今後の展開に注目をお願いします。（河村）

映画　梅切らぬバカ　奈良では、ユナイテッドシネマ橿原で上映されましたが現在は上映終了となっています。見逃された方にもこの映画の内容を知っていただきたく、監督と演者の話を以下に掲載します。河村

「梅切らぬバカ」自閉症の息子演じた塚地武雅さんと和島監督に聞く。社会はゆるやかにつながれるのか（ハフポスト日本語版ホームページより引用）https://www.huffingtonpost.jp/entry/story_jp_61720a9ae4b03072d6f47e37

映画『梅切らぬバカ』が公開された。塚地武雅さん演じる“忠さん”には自閉症がある。当事者、演者のさまざまな意見を取り入れながら製作したプロセスについて、塚地さん、和島香太郎監督に話を聞きました。

都会の古民家で寄り添って暮らす母と息子。ささやかな毎日を送っていたが、息子が50回目の誕生日を迎えた時に母はふと気づく。「このまま共倒れになっちゃうのかね？」塚地武雅さん（ドランクドラゴン）が演じる“忠さん”こと忠男には、発達障害の一種・自閉症がある。加賀まりこさんが演じる母で占い師の珠子とともに2人で暮らすが、「共倒れ」にならないよう、珠子と忠さんは動き出す。忠さんをグループホームに入居させようにも、地域との軋轢が生じてうまくいかない。隣家に越してきた家族は、いぶかしい視線で忠さんを見る。ただ馬が好きなだけなのに、近所の乗馬クラブとトラブルを起こしてしまう。そんなままならない日常を、忠さんと珠子はどう乗り越えていくのだろうか。撮影にあたって実際にグループホームを訪れて役作りをしたことや、当事者・演者のさまざまな意見を取り入れながら製作したプロセスなどについて、監督の和島香太郎さんと、忠さんを演じた塚地武雅さんに話を聞いた。はみ出している梅の木のように忠さんと珠子が暮らす古民家の庭には、梅の木がある。木の枝は、前の私道に大きくはみ出ている。梅の木がはみ出た私道を通らなければ入れない隣家の戸建て住宅に3人家族が引っ越してきたが、枝が邪魔になる。枝が私道にはみ出る、忠さんが街にはみ出る、隣家の子ども・草太（斎藤汰鷹さん）が忠さんの家にはみ出る。そんな風に「越境」していく社会の関係性のなかに、自閉症のある忠さんが暮らしている。塚地さんと和島監督は、ともにグループホームを訪れ、忠さんのイメージを湧かせていった。「お二人の当事者がいるグループホームで、リビングの真向かいに座って、職員の方にお話を聞きながら、暮らしの様子を見せていただきました。そして、お二人と少しお話もしましたね。二者二様というか、全く違うタイプの方が同じ屋根の下に住んでいて、お二人の纏う空気が、そこはかとなく優しい感じがしたんですよ。性格や、自閉症の方特有のこだわりも伺い、“忠さん像”が見えてきました。お二人の発言や仕草は独特ではあったんですけど、優しい空気も忠さんにもあっていいんだなと思いましたね」（塚地さん）本作で何より強く心に残るのが、塚地さんをはじめとする役者陣の演技だ。“忠さん”は、毎朝正確に「6時45分です。6時45分です」と言って起床し、歯を磨き、「7時10分です」と決まった時間に朝食を食べ始める。そんな忠さんの自然な魅力は、ぜひ本作を観て体感してほしい。「ただ普通に過ごしたいだけなんです」和島監督自身はてんかんの当事者でもあり、ネットラジオ番組『てんかんを聴く「ぽつラジオ」』では当事者へのインタビューなどを通して情報発信にも取り組む。マイノリティ性に拠って立ち、映画を作る和島監督は、本作では髭剃りや散髪といったモチーフで、当事者の抱える感覚過敏などの特性をつぶさに描いた。マイノリティが直面する困難さへのまなざしも光る。「障害のある方が暮らすからと言って、近隣の住民のみなさんに丁寧に説明をする必要があるのか、という考え方がありますよね。そうでない方がその街に引っ越してきたときは、挨拶する必要もなく、そこでさりげなく住むことができますから。他方で、対立を避けるために丁寧な説明が必要という考え方もあります。取材では、グループホームを建設するとき、近隣住民の方にどういった説明会を開いたかを聞きました。印象的だったのは、『実際に中を見ていただいた方が安心できるんじゃないか』という言葉です。そのなかで、『うちの隣じゃなかったらいいんだけどね』とも言われたそうです。そうした態度に葛藤を抱きながらも、グループホームを運営する方々が、利用者の方に居心地のいい空間を作ろうとしている思いは伝わってきました。結果的にどちらが利用者にとって居心地のいい日常を作っていけるかが大事だと思います」（和島監督）“NIMBY”と呼ばれる問題がある。“Not In My Back Yard（うちの裏庭ではないところに）”の頭文字で、施設の必要性には賛成する一方、施設が身近な場所に設けられることには反対することを指す。日本では、保育園や児童相談所の建設が反対運動に遭うことも珍しくない。作中で、グループホーム運営の反対運動をする近隣住民が、メガホンで印象的な言葉を投げる。「私たちは、決して、批判

を、非難をしているわけではありません。ただ普通に過ごしたいだけなんです。安心して暮らしたいだけなんです」近隣住民だけでなく、障害のある人も含めたあらゆる人の普遍的な願いではないだろうか。障害のある人が社会参加するとき、さまざまな軋轢が生じやすいのは、他者からの偏見に基づいていることも多いだろう。一方で作中の忠さんは普段、包装箱を組み立てる仕事をしているが、職場という社会の上司からは、特性や努力を理解され、「最近、一生懸命働いてくれています」と評価を受けている。「ただ普通に過ごしたい」というそれぞれの願いが交錯するとき、あいだに偏見や誤解があるのだとしたら、取り除けたほうがいい。加賀まりこさんとの対話で加えた、ある言葉　忠さんの母・珠子を演じる加賀まりこさんと、和島監督は脚本について対話し、撮影を進めていった。「最初に脚本をお渡ししたときに、『とても大切なテーマだよね』と。お話を伺うと、加賀さんの身近にも障害のあるお子さんを持つ親御さんがいて、僕よりも詳しいほどでした。脚本をやり取りしていくなかで、加賀さんは『忠さんにこんなことは言わない』『忠さんにこういうことを言いたい』とおっしゃっていたので、意見を聞きながら脚本を書き直していきました。僕は、役のことを一番わかっているのは役者さんだと思っています。だから、役者さんがやりたくないことはなるべく避けて、逆に役者さんが『こう動くんじゃないか』と提案することを大切にしたい。加賀さんの意見で一番印象に残っているのは、『忠さんに対して“ありがとう”という感謝の言葉がこのシナリオにはないよね』と言われたことです」（和島監督）本作では、障害のある人々が周囲から疎まれるシーンも多い。反対に、感謝される場面はあるべきなのだろうか。和島監督は、加賀さんとの対話と、ある親御さんとの出会いを通して、考えを変えていった。「『珠子さん、そういうこと言うかな』『言わないんじゃないですかね？』とやりとりをしていたんですが、撮影に入るちょうど前日に、自閉症のあるお子さんをお一人で育ててきた高齢の親御さんにお会いすることができ、脚本を読んでもらいました。物静かな方でしたが、『この脚本には（忠さんに対して）ありがとうという言葉がない』と、加賀さんと同じことをおっしゃったんです。それを聞いて、珠子さんが忠さんに『ありがとう』と伝えるシーンを加えました。加賀さんに伝えたら、『私が言ったときには納得しなかったのに』とおっしゃってましたけど（笑）。とても印象に残っていることですね」（和島監督）登場人物が自然な動きを見せるのは、本作の印象的なポイントだ。塚地さんもこう振り返る。「撮影では、最初から最後まで忠さんという存在になって過ごした感じでした。自分なりの“忠さん像”ができるまではいろいろ悩みましたが、できてからはもう、ただただその場にいるみたいな感じでやらせてもらっていましたね」（塚地さん）本作には、忠さんと、隣家に越してきた少年・草太が心を通わせるシーンがある。草太が忠さんのお気に入りの馬のぬいぐるみを触ってきたときに、普段は自分の領域を大切にする忠さんの“嫌ではない”感じが見て取れる。「子どもって、うがった見方をしないじゃないですか。友達になりたいときはピュアに話しかけたり。大人と違って、興味や共通点みたいなことに基づいて、すぐに距離を縮めていきますよね。役を離れた普段の状態の僕と汰鷹くんも似た関係だったんですよ。彼が近づいてきては、僕がネタ番組用に考えてたギャグみたいなのを一緒に考えようとか言って、アイデア出してくるし（笑）。それが作中の忠さんと草太の関係にそっくりで、彼に忠さんを作ってもらった部分もあるような気がします。以前に別のドラマで一緒になったこともあって、気心も知れていて。あの役の通りの純粋さと優しさを持ってる子で、この作品のキーパーソンですね」（塚地さん）タイトルの『梅切らぬバカ』は、ことわざの「桜切る馬鹿、梅切らぬ馬鹿」に由来している。「樹木の剪定には、それぞれの木の特性に従って対処する必要があるという戒め」を意味している。「病や障害を開示することによって、関係が歪んでしまったり断ち切られてしまったりすると思い込んでしまうこともあるし、実際にそういう現実もあると思います。でも、このようにゆるやかにつながっていくこともあると思うんです」（和島監督）さまざまに越境していく忠さんや周りの人々から、映画を観る人々はきっと、ゆるやかな共生のあり方を発見できるだろう。塚地さんも、『梅切らぬバカ』が身近な作品になっていくことを望む。「自閉症のある方や、自閉症の子を持つ親御さん、近隣に住んでいる方も含め、『わかる！』『そうだよね』と、なんかちょっと肩の荷が降りるというか、ちょっと同じ境遇の人同士で話したような感覚になれば嬉しいです。そうじゃない方々には、彼らのことが伝わって、見方が少しでも変わればいいと思います。多くの方に観ていただいて、何か感じ取ってもらえたら嬉しいですね」（塚地さん）（取材・文：遠藤光太　編集：毛谷村真木／ハフポスト日本版）

映画「梅切らぬバカ」を観て

奈良県内でも 12 月に上映され、時間を作って観てきました。
自閉症アルアル。
グループホームあるある。
違和感なく、最後まで観終えました。
あれ、ここで幕？
めでたし、めでたし！
…とまではいかないけど、
このままでは終わらないぞ、何とかするし、何とかなる。
今の　我が家も　同じ。
誰もがめでたし、めでたし！
…を心にとめて、
このままでは終わらないぞ、何とかするし、何とかなる。
著名でご活躍の俳優さん達が丁寧に表現してくださっていました。
制作者さん達も、俳優さん達も、
自閉症スペクトラムの事を調べて下さった様子がよく分かります。
続きがあったら、また　見たい。
それとも
続きは　見た人それぞれの未来の道、でしょうか。
会場には、子供がグループホーム年齢くらいかのご夫婦らしいご家族が複数でした。

第 19 回オリパラネット会議について

加盟団体の皆様お世話になります。日本自閉症協会政策部より、オリパラネット会議についての情報提供をさせていただきます。１月５日（水）に表記会議が ZOOM で行われました。
＜資料はこちら＞
第 19 回オリパラネット会議・次第　http://www.autism.or.jp/kaigi/oripara/1.pdf
　オリパラネット構成団体一覧　http://www.autism.or.jp/kaigi/oripara/2.pdf
【資料１】令和 3 年度の日本博フェスティバル進捗状況 http://www.autism.or.jp/kaigi/oripara/3.pdf
　（資料１参考）キャラバン事業企画書　http://www.autism.or.jp/kaigi/oripara/4.pdf
【資料２】今後のオリパラネットの活動について http://www.autism.or.jp/kaigi/oripara/5.pdf
【資料３】令和 4 年度の日本博フェスティバル申請について　http://www.autism.or.jp/kaigi/oripara/6.pdf
（抽象的な言葉が多く読取辛いです）
日本自閉症協会からは政策担当の今井が参加しました。
会議で提案された以下のことは承認されました。
1. 来年度はオリパラネットの会費を徴収しない
2. 来年度日本博フェスティバル申請（資料 3）はとりあえず育成会名で応募する
3. ３月にオリパラネット会議を行う。組織の在り方等の意見を持ち寄る。・・・・どなたか、ご関心のあるかたのご協力をお願いします。
説明・・・・今井は？が多く、うまく説明できません。すみません。
障害者アートと合理的配慮の関係が一つのテーマ・・・・主な内容が展示会場のことなのか、そうでなく、国際活動での契約や著作権などのことなのかよく分かりません。
団体（略称）の関係は、・・・・
オリパラネット（事務局：全育連）＜日本博全国会議＜日本博フェスティバル
のように受け取りました。
今井の印象：これまでの事業の主目的が、日本の障害者アートを諸外国に発信する（文化庁の方針）となっていることに私は違和感があって、日本のすごさの発信だけではなく、アートを通じた国際交流で障害者の存在価値を国際的に高めることも目的であってほしと思いました。

以上　政策担当 / 今井

奈良県のコロナ関連情報・障害者関連情報

最新情報

〇奈良県新型コロナウイルス感染症対策

感染拡大に対応できる医療提供体制を堅持し、適切な感染防止を図りながら日常生活を維持する

令和４年１月 12 日第 30 回新型コロナウイルス感染症対策本部会議

コロナ関連情報について下記の記事を掲載しています。

HTML　https://www.pref.nara.jp/59997.htm

PDF　https://www.pref.nara.jp/secure/259806/20220112_naracorona30.pdf

映像　準備中（出来次第、上記 HTML に掲載します。）

〇 （1/11）障害者雇用促進ジャーナルはたらく No.15 を発行しました

・障害者の就労を応援する。

HTML　https://www.pref.nara.jp/secure/259784/journal15.pdf

〇　自治体・個人・団体からの布製マスクの配布希望の申出について（締め切り延長 1/14 → 1/28）

・厚生労働省では、新型コロナウイルス感染拡大を防止する観点から、布製マスクについては、希望する介護施設等への配布等をこれまで実施してきたところです。今般、事業の実施に伴い生じた在庫に関して、解消に向けた今後の進め方を別添のとおり整理したところ、今後、有効活用のために配布を希望する方等のニーズを十分に踏まえながら、今後の進め方に沿って必要な対応を速やかに実施していくこととしており、有効活用の実施については、介護施設等に加えて、自治体及び個人等についても希望に応じて配布することといたしました。

・個人及び団体の募集の方法・配布の流れ

　申込様式（EXCEL）に必要項目を入力の上、専用メールアドレス

「mask-kojinn@mhlw.go.jp」へ様式を添付の上送付。

HTML　https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/mask_haifu_kibou.html

〇　奈良県新型コロナウイルス検査促進事業の実施について（感染拡大傾向時の一般検査）（当分の間）

・オミクロン株の市中感染が奈良県を含めた近隣府県において発生していることから、奈良県新型コロナウイルス感染症対策本部は、新型インフルエンザ等対策特別措置法第 24 条第 9 項に基づき、「感染に不安を覚える無症状者に対し、検査を受けること」を県民に要請し、無料検査を実施します。

HTML　https://www.pref.nara.jp/59958.htm

〇　奈良県新型コロナウイルス検査促進事業の実施について（ワクチン・検査パッケージ等定着促進事業）（3/31 まで）

・健康上の理由等でワクチン接種を受けられない方が、「ワクチン・検査パッケージ制度」等で必要となる検査（PCR 検査等、抗原定性検査）について、令和４年３月３１日まで、無料化します。

HTML　https://www.pref.nara.jp/59953.htm

○　12/15 奈良県重症心身障害児者等アンケート調査（1/24〆切）

・このたび本県では、県内の重症心身障害のある方と、医療的ケアを必要とする方の実態を把握し、今後の県の施策検討の基礎資料とするため、ご本人・保護者・支援者に向けたアンケート調査を行うこととしました。

・調査は無記名で行い、ご本人の障害程度や利用しているサービスの状況、不足している支援などを回答いただくものとなっています。調査票の対象となる方は次のとおりです。

（１）重症心身障害児者（以下の①～③を全て満たす方）

①令和 3 年 12 月 1 日時点で 3 歳以上

②障害の発生が 18 歳未満

③運動機能障害（ 室内のつたい歩きができない程度 ）と知的障害（ 発達指数 35 以下 ）が重複する

（２）医療的ケア児者（以下の①～③をすべて満たす方）

①令和 3 年 12 月 1 日時点で 1 歳以上

②障害の発生が 18 歳未満

③調査票 2 ページ目に記載のある医療的ケアのいずれかを必要とする

HTML　https://www.pref.nara.jp/item/258172.htm

○　2/5 令和 3 年度 奈良県医療的ケア児等コーディネーターフォローアップ研修の実施について（1/21〆切）

・人工呼吸器を装着している児童、その他の日常生活を営むために医療を要する状態のある児童や重症心身障害児者（以下「医療的ケア児等」という）が地域で安心して暮らしていけるために、医療的ケア児等コーディネーターが地域での実践力を獲得できるようフォローするための研修会を開催します。

HTML　https://www.pref.nara.jp/item/258912.htm

○　新型コロナワクチン接種状況等について

・新型コロナワクチン接種状況等について

HTML　http://www.pref.nara.jp/57762.htm

PDF　https://www.pref.nara.jp/secure/243695/1201.pdf

お し ら せ

奈良県自閉症協会のメーリングリストに参加されていた方にはお知らせしましたが、厚労省より、布製マスク余剰分についての配布を令和４年１月１４日（金）までの募集で行うとの連絡がありました。個人でも、団体でもメールで申し込めました。全国から多数の申し出があったようです。保管費用が膨大になるため、廃棄目的の多量の余剰マスクでしたが、もったいないので、出来るだけ利用してほしいとの厚労省の思いでなされました。申し込まれた方には１月中旬以降に順次配布されます。注意事項として※ 不良品等の場合をのぞき、原則、返送は受け付けておりません。無償配布した布製マスクについては、転売や、商業利用をはじめとする不適切な利用はできません。 応募多数の場合は、希望数どおりに配布できない場合がありますので、あらかじめご了承いただけますようよろしくお願いいたします。とのことです。（河村）

HAHAHA キャラバン隊～ 2021 秋は３会場で講演させていただきました！～

2020 年から 2021 年にかけて、キャラバン講演は見合わせが相次ぎましたが、昨秋は 3 会場よりご依頼いただき、新型コロナウイルスへの感染対策および、講演内容や時間も感染リスク軽減を工夫し実施させていただきました。発達障害児者のサポーターの皆様向け、子育てサポーター養成講座の皆様向け、そして 11 月の障害者週間には、県内の中学校で職員と全校生徒の皆様向けに、元気に講演させていただきました。
中でも中学生の皆様から寄せられた感想文が本当にありがたく、また生徒の皆様の理解力とその先への見通し力が素晴らしく、抜粋しながら皆様にご紹介させていただきます。

〇自閉症の見え方・聞こえ方体験からは、みんないろいろ違っていて、それがまた良いなと思った。
〇挿話「ひび割れつぼ」の主人公の様な種をまく人になりたいと思った。
〇挿話「ひび割れつぼ」の「ひび」を活かしたアイデアに感動した（複数）。
〇挿話「ひび割れつぼ」の「ひび」のように皆、個性を持っていてみんな良い！
〇ミスをしたときも、これからはそこから良い行動に変えられるんじゃないかと、なんだか自分に自身が持てる気がした。
〇自閉症の人は、うまく行かないことだらけの中で、頑張って生きているのがすごい！
〇折り紙体験（不器用さ体験）では、一度にいろいろ言われて途中から自分はあきらめた…体験してみないと当事者の気持ちはわからないので、これからは理解していきたい。
〇（言葉ではうまく伝わらない）ピカピカ王国では、欲しいものをわかってもらう、何をしたいかわかってもらうには、工夫がいることがわかった。
〇自分はＡＤＨＤの診断を受けています。最初は戸惑ったが、同じ境遇の人がいるのを知って受け入れられた。これからはいろんな障害について理解できるようになりたい。
〇軽度の障害を持つ自分の兄弟に対して、「何で出来ないの？」「とうしてそうなるの？！」と思っていた。キャラバンの講演の体験の中で、実際、自分が全体像が見えなかったり、すぐその場で理解できず脳の中で整理できなかったら私もパニックになる…と相手の立場になって考えることが大事だと考えさせられた。
見ただけではわからない障害である分、普段向き合っていくのは難しいのが現状。でも、相手を理解し、自分の事も理解し、受け入れて助け合う社会を、これから自分たちの手で、身近なところから作り上げていきたい。

〈生徒の皆さまがたへ〉
1 時間ほどのわたしたちの話と体験の中でこんなにも多くを受け止めていただき、
皆様方の吸収力と広い理解力に心から感謝し尊敬いたします。
皆様の未来社会が豊かで、可能性に満ち、いろんな仲間との交流が広がることを信じています。
ありがとうございました。そして、これからも、どうぞよろしくお願いします！
キャラバン隊一同

2021年度　ならやまオープンセミナー

ゲーム・ネットの世界から

離れられない子どもたち

ゲーム・ネット・スマホを使い過ぎてしまう子どもたちをどのように理解し、対応すれば良いのでしょうか。

無理に辞めさせようとして、問題がより深刻化することも少なくありません。

またコロナ禍において、「嗜癖」の問題はより大きなものになっているのではないでしょうか。

今回は児童精神科医の吉川徹先生に、ゲーム・ネット・スマホ嗜癖の理解と対応についてお話いただきます。

ご家庭で、学校で、どのように対応していけば良いか、また発達障害との関連についても教えていただきます。

▶講師　吉川　徹 先生（児童精神科医）

愛知県医療療育総合センター中央病院 子どものこころ科

▶日時　令和4年2月26日（土）13：30～15：00

✸オンライン開催（zoomを使用します）

※リアルタイム配信のみ。当日不具合のあった方は、センターまでお問い合わせください。

✸定員→500名（先着順）

✸参加費→1,000円

✸申込締切→令和4年2月7日(月)

※お申込み者には2月8日に入金案内をメールにてご連絡いたします。2月15日(火)までにお振込みがない場合、受講していただくことができません。

※返金不可とさせていただきます。ご了承ください。

ホームページの申込みフォームに、必要事項を入力して申し込んでください

奈良教育大学

特別支援教育研究センター

Tel／Fax　0742-27-9314

E-mail　tokubetsu@nara-edu.ac.jp

※本講座についてのお問い合わせは、メールでも受け付けます。

公益財団法人
JKA助成金事業

学習相談事業

自閉スペクトラム症児者が自立してゆくためにはどうすれば良いのか
上記をテーマに、支援を実践されている先生方をお招きして、講演会と座談会を開催いたします。
講演会はYouTubeにて同時配信(ハイブリッド配信)します
https://youtu.be/qiWcEyf08n0

主催　(一社)日本自閉症協会
共催　(一社)大阪自閉スペクトラム症協会
後援　自閉症スペクトラム児者を支援する親の会 オアシス(JDDnet エリア会員)

日 時　2022年 1月30日 日 10:00−15:00

ドーンセンター　4階大会議室　大阪市中央区大手前1−3−49

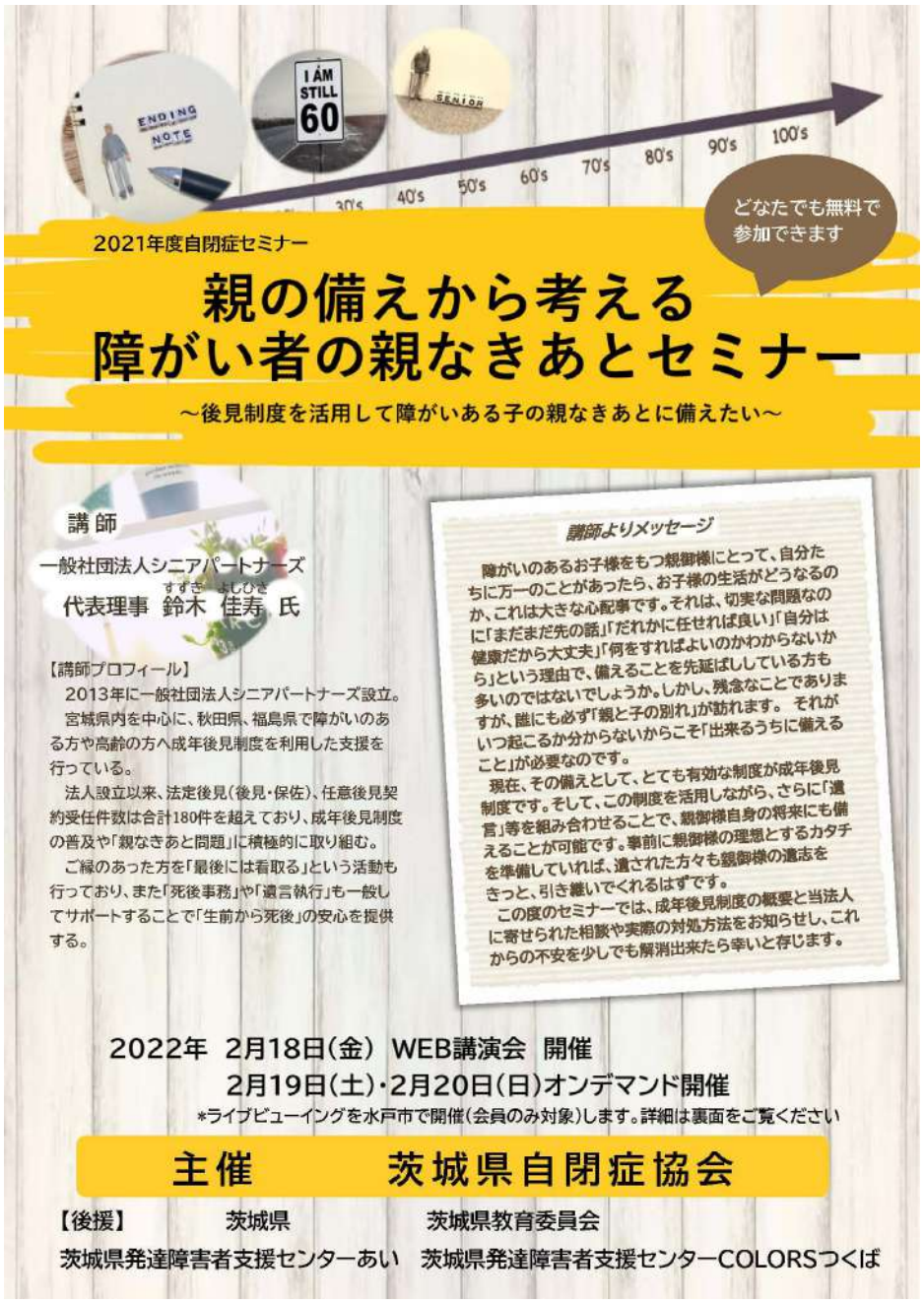
第1部　10:00～12:00
「就職に不安のある学生への支援を考える～エンカレッジの就労支援を通して」
講師：窪　貴志　氏　(株式会社エンカレッジ　代表取締役)

第2部　13:00～14:00
「共に地域で支えられながら働く事」
講師：坂根　匡宣　氏
(社会福祉士　公認心理師
一般社団法人 ダイアロゴス代表理事)

14:10～15:00 座　談　会(当日会場参加者のみ)

※午前・午後のみの参加も可能です。

ご　予　約
お問い合わせ
一般社団法人大阪自閉スペクトラム症協会
TEL　06−4862−4144



どなたでも無料で参加できます

2021年度自閉症セミナー

親の備えから考える 障がい者の親なきあとセミナー

～後見制度を活用して障がいある子の親なきあとに備えたい～

講師

一般社団法人シニアパートナーズ

代表理事　鈴木（すずき）　佳寿（よしひさ）　氏

【講師プロフィール】

2013年に一般社団法人シニアパートナーズ設立。

宮城県内を中心に、秋田県、福島県で障がいのある方や高齢の方へ成年後見制度を利用した支援を行っている。

法人設立以来、法定後見（後見・保佐）、任意後見契約受任件数は合計180件を超えており、成年後見制度の普及や「親なきあと問題」に積極的に取り組む。

ご縁のあった方を「最後には看取る」という活動も行っており、また「死後事務」や「遺言執行」も一般してサポートすることで「生前から死後」の安心を提供する。

講師よりメッセージ

障がいのあるお子様をもつ親御様にとって、自分たちに万一のことがあったら、お子様の生活がどうなるのか、これは大きな心配事です。それは、切実な問題なのに「まだまだ先の話」「だれかに任せれば良い」「自分は健康だから大丈夫」「何をすればよいのかわからないから」という理由で、備えることを先延ばししている方も多いのではないでしょうか。しかし、残念なことでありますが、誰にも必ず「親と子の別れ」が訪れます。それがいつ起こるか分からないからこそ「出来るうちに備えること」が必要なのです。

現在、その備えとして、とても有効な制度が成年後見制度です。そして、この制度を活用しながら、さらに「遺言」等を組み合わせることで、親御様自身の将来にも備えることが可能です。事前に親御様の理想とするカタチを準備していれば、遺された方々も親御様の遺志をきっと、引き継いでくれるはずです。

この度のセミナーでは、成年後見制度の概要と当法人に寄せられた相談や実際の対処方法をお知らせし、これからの不安を少しでも解消出来たら幸いと存じます。

2022年　2月18日(金)　WEB講演会　開催

2月19日(土)・2月20日(日)オンデマンド開催

*ライブビューイングを水戸市で開催(会員のみ対象)します。詳細は裏面をご覧ください

主催　　茨城県自閉症協会

【後援】　茨城県　　茨城県教育委員会

茨城県発達障害者支援センターあい　茨城県発達障害者支援センターCOLORSつくば

2022年　2月18日(金)　WEB講演会開催

2月19日(土)・2月20日(日)　オンデマンド開催

【2月18日(金)】
10:00～　講演会
11:30～　質疑応答
12:00　　閉会

【2月19日(土)・2月20日(日)】
URLをアドレスバー(もしくはYouTubeの検索窓)に入力して、YouTubeにある講演会をご覧ください。
この2日間のみ、好きな時間にご覧いただけます。

茨城県自閉症協会　会員特典

2月18日(金)に開催されるWEB講演会には、
当協会の会員特典が2つあります。

1. 講演会のライブビューイングに参加できます
2. 講師への直接質問ができます

【ライブビューイング】
WEB上で開催している講演会を、同時に大きなスクリーンでご覧いただけます。

WEB上での講演会を、水戸市内での会場でライブビューイングします。
また、講演会終了後、講師に直接相談や質問することができます。
個別の相談についても1組限定(30分以内・無料)で受けていただけるそうです。
会員特典を希望される方は、できるだけ早めの申込をお願いいたします。会員の方にはFAXや電話での申込対応いたしますので、ご連絡(電話は留守電へ)いただければ返信いたします。

WEB講演会の参加方法

申込締切:2022年1月31日(月)

1. 茨城県自閉症協会のホームページにある「2021年度自閉症セミナー申込フォーム」に記入し、送信ボタンを押す。
2. 当協会から2021年度自閉症セミナー案内のメールが、募集締切終了後に送られます。
3. 前日までにWEB講演会をご覧いただけるURLをメールで配信します。当日、時間になりましたらアクセスしてください。

WEB講演会は、YouTubeがご覧いただける環境があれば参加することができます。
お申込後、記入されたメールアドレスに当協会からメールを送りますので、必ず協会のアドレスやPCから受信できるメールアドレスをご記入ください。

＊締切後、自閉症セミナー案内メールが届かない場合は、当協会HPお問い合わせからメールをくださるようお願いいたします。

茨城県自閉症協会
〒311-3157　東茨城郡茨城町小幡北山2766-36
社会福祉法人梅の里内
TEL　070-29-7946(留守電対応)　FAX　029-292-5310
E-mail　asibaraki@yahoo.co.jp
ホームページ　https://asibaraki2020.jimdofree.com

茨城県自閉症協会HP
QRコード

発行人：関西障害者定期刊行物協会
住　所：〒５４３－００１５
大阪市天王寺区真田山２－２　東興ビル４F
編集人：奈良県自閉症協会
定　価：１００円

一九九六年五月一日第三種郵便物承認　毎月（1・2・3・4・5・6・7・8の日）発行